

■生家の復元について

濱口雄幸の生家は久しく住む人もなく荒れていましたが、心を痛めた市民有志が集まって「濱口雄幸生家を補修復元する会」を平成4年11月6日に発足させ、復元に向けての活動を開始しました。

政治家濱口雄幸への再評価、また、おりからの政界浄化への国民の願いによって活動の中でも募金活動は大きな反響を呼び、1年余りの間に3,500万円を越す浄財が寄せられました。

復元工事は平成5年6月21日に始まり、翌年2月28日に竣工を見ました。完成後、建物は同復元する会から、土地は水口家から高知市へ寄贈され、濱口家からはゆかりの品々、貴重な資料が寄託されました。

記念館は、雄幸の人物と業績等を伝え、社会教育を振興するため平成6年4月1日、雄幸の誕生日に開館しました。

施設紹介・・・・・・・・・・



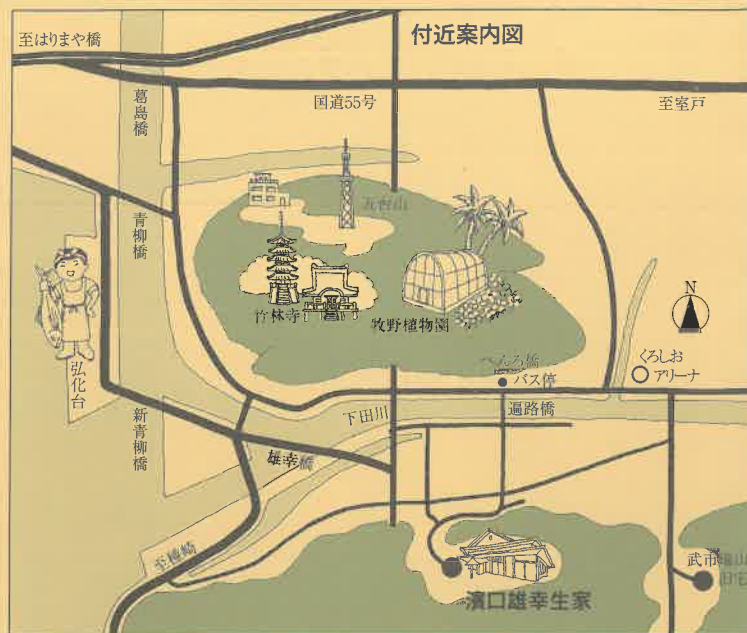
主屋・大正14年大蔵大臣の雄幸は、沿道の歓迎に応じて兄義清と並んで青柳橋から歩きながら帰宅したが、この主屋で、両手をついて兄に帰郷の挨拶をした。



勉強部屋・古い雄幸の評伝に『窓もない穴蔵のような勉強部屋』と評されている。壁には三国志の張飛や諸葛孔明らの絵が張られていたという。

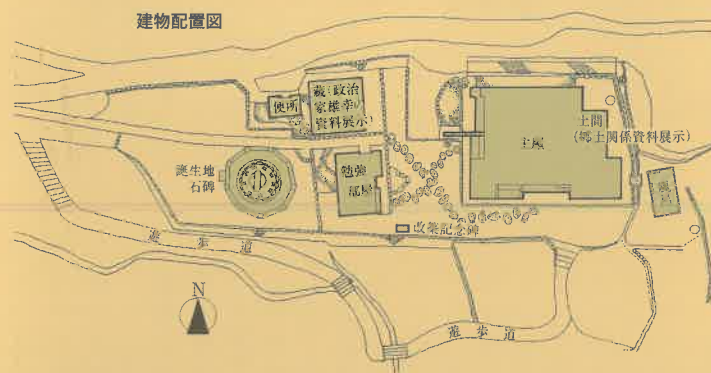


蔵・雄幸が入り込んで遊んだ蔵。その前にある楓の老木は、雄幸の少年期を知っている生き証人。時々上がって遊んだ遊び場ではなかったか。



●交通

土佐電鉄バス（前浜・久枝線）へんろ橋下車 徒歩20分

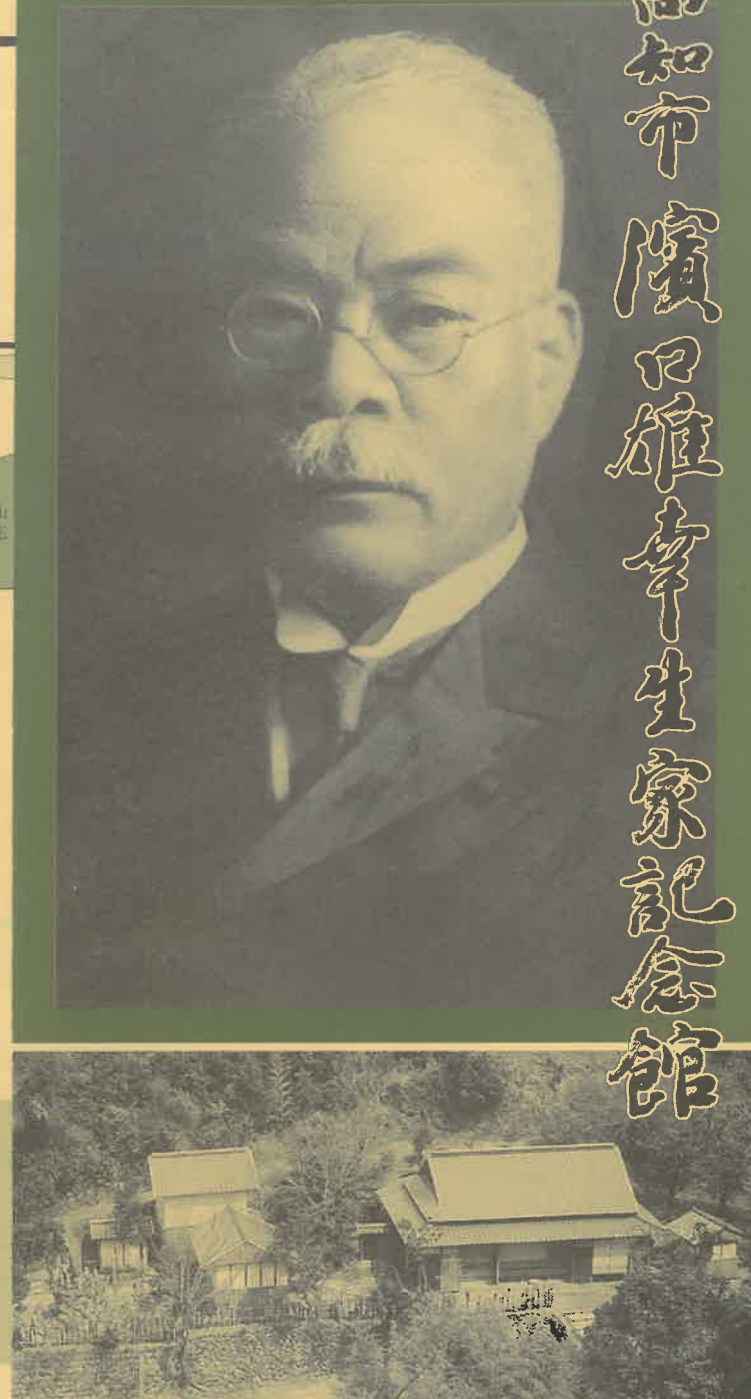


記念館のご案内

休館日 毎週水曜日 年末年始（12/27～1/3）
 開館時間 午前9時～午後4時
 見学料 無料（館内での禁煙にご協力下さい）
 お問い合わせ 高知市教育委員会（民権・文化財課）
 〒780-0810 高知市棧橋通4-14-3 ☎088-832-7277
 記念館所在地 〒781-8125 高知市五台山4377

田野町・濱口家 濱口雄幸旧邸 安芸郡田野町中森次378
 お問い合わせ 田野町教育委員会 ☎08873-8-2511

高知市濱口雄幸生家記念館



高知市教育委員会

少年時代の雄幸と唐谷

昭和五年十一月十四日午前九時前、東京駅のプラットホームで、一発の銃声が響いた。右翼青年の凶弾であった。濱口雄幸はその場で崩れ込んだが、弾丸は小腸を裂き、腰骨に喰い込んだ。彼はこれが最後だと認識し、日頃愛唱していた『碧巖録』の一節「夜深クシテ同じク見ル千巖ノ雪」を唄いながら死のうと口ずさみ出した。そして秘書に「男子の本懐だ」と漏らした。この言葉は翌朝新聞によって報ぜられ、一躍流行語となった。

濱口雄幸は明治三年四月一日、旧池村東孕(現五台山)唐谷に生まれた。彼の祖、水口次郎左衛門は、戦国時代の武将本山茂辰の家臣で、横浜(高知市)にあった水口城の城主であったが、長宗我部元親に攻められて四散し、この東孕に『隠れ里』として住みついた。生家はそんな寂しい『枯れ谷』の山中の一軒家。父胤平、母繁の三男で、長兄義清は十六歳、次兄義正は八歳。その末っ子であった。胤平は今度こそ女子だと期待し、『幸』という名前を決めていたが、またの男子で落胆した。今さら変えるのも億劫で『男の幸』すなわち『雄幸』と命名したといわれている。胤平は五等士族。最下級の山役人であったから、年がら年中、四国山系に分け入って留守がち。しっかり者の祖母米と繁が養育に当たった。兄弟もこれほど歳が違えば、一緒に遊んでくれるはずもなく、一人山に入っては草花や木々、虫らと遊び、家にあつては家蔵の本を黙って見つめる子供だった。この環境がいつしかもの



濱口雄幸ブロンズ像
三木宗策製作 濱口家寄託

を言わない、寡黙な性格を創り出した。少年期の彼は、臆病な性格で、雷が鳴り始めると顔は青ざめ、ただ耳をふさいでガタガタとふるえる少年であった。長兄を『オケニイサン』(大きな兄さん)、次兄を『ニイサン』と呼んだが、母繁は厳格な人で、自分の身のまわりのことは自分ですること、どんな困苦の生活も耐えること、男らしい人間になること、いつも厳しくしつけたという。十二、三歳になると村の少年達と少しは遊ぶようになってきたが、彼達の遊びは、鰻のヒゴ釣り、エガニ捕り、コボテ(小鳥を獲る仕掛け)などであった。中でも女郎蜘蛛の喧嘩は特に熱心に行った。強い大きな蜘蛛を生け垣に飼っておいで、試合をさせるのである。ただ水泳だけは苦手で、父も水難を恐れて禁じていたといわれている。

明治十一年、孕小学校へ入学したが、最初の先生は兄義清と関田修斎。校舎も九反田にあった旧山内家の倉庫の廃材を運んで建てた馬小屋のような建物。職員室もなければ、天井もない。運動場もなかった。五台山地区の子供達は『孕の小学校はボロ学校』と嘲し立てたが、彼等には何の抗弁できるものも

ない。ただ一つ毎朝国旗を揚げる杉のポールが、山内家から払い下げられたもので、四周の学校の中でも一番高く、立派であった。『何を言いよりやあ、フラフ(旗)を見よ、フラフを見よ』と言いつ返した。

明治十六年五月、雄幸は高知県立中学校へ往復十六キロの道を徒歩で通った。中学に入っても彼の寡黙癖は直らず、ただ書物を懐から離さぬ青年になっていた。後年雄幸はこの唐谷をもじって空谷と号したが、空や無は禅の境地。小我を脱して大我に生きる生き方である。国際協調を堅持してロンドン海軍軍縮条約に調印、堅縮財政により軍部の台頭を抑えようとして、命を投げ打って国政に当たったのも、禅書『碧巖録』を唱しながら死のうとしたのも、空や無を求めた日常の精進修行によるものだといえるだろう。

この唐谷の地は、雄幸の精神と肉体を創生した『天地自然』である。彼にとつては『小宇宙』であった。その意味でこの地は、日本の憲政史上、忘れてはならない土地ではなからうか。

(郷土史研究家 谷 是)

濱口雄幸略年譜

明治

- 3 1870 1歳 長岡郡池村唐谷山屋敷で誕生
- 11 1878 9歳 孕小学校へ入学
- 15 1882 13歳 孕小学校尋常科卒業
- 16 1883 14歳 高知中学校(現追手前高校)へ入学
- 20 1887 18歳 成績優秀で褒賞を受ける
学力優秀を以て臨時試験を施し進級
- 21 1888 19歳 高知中学校卒業、第三高等学校入学
- 22 1889 20歳 高知県安芸郡田野村の濱口家に入籍
- 23 1890 21歳 濱口夏と結婚
- 24 1891 22歳 第三高等学校卒業、
東京帝国大学政治学科入学

大正

- 28 1895 26歳 東京帝国大学卒業
高等文官試験合格、大蔵省入省
- 29 1896 27歳 山形県収税長
- 37 1904 35歳 専売局入り
- 1 1912 43歳 第三次桂内閣通信次官就任
- 2 1913 44歳 通信次官を辞任、
立憲同志会結党に際し入党する
- 4 1915 46歳 第12回総選挙に高知から出馬初当選する
- 5 1916 47歳 憲政会結党、雄幸が総務となる
- 6 1917 48歳 第13回総選挙、落選する
- 8 1919 50歳 補欠選挙で当選する
- 13 1924 55歳 加藤高明内閣で大蔵大臣
- 14 1925 56歳 夫妻で帰高、母校で講演

昭和

- 1 1926 57歳 第一次若槻内閣で内務大臣
- 2 1927 58歳 立憲民政党結成、総裁となる
- 3 1928 59歳 第16回総選挙で当選
- 4 1929 60歳 内閣総理大臣就任(7月)、
金輸出解禁令公布(11月)
- 5 1930 61歳 第17回総選挙で当選、
ロンドン海軍軍縮条約調印(4月)、
東京駅で右翼青年に狙撃され重傷を負う(11月)
- 6 1931 62歳 内閣総理大臣を辞任(4月)、
容体急変死去(8月26日)